

日本日中関係学会主催

「第9回宮本賞(学生懸賞論文)」募集のご案内 2020.6



(左から第7回受賞者の皆さんと宮本会長、第8回受賞者論文集、第7回受賞者による「若者シンポジウム」)

日中関係学会では以下の要領で、「第9回宮本賞(学生懸賞論文)」の論文募集を行います。若い世代の皆さんが日本と中国ないし東アジアの関りに強い関心を持ち、よりよい関係の構築のために大きな力を発揮していただきたい。また日中関係学会の諸活動に積極的にご参加いただき、この地域の世論をリードしていただきたい。宮本賞はそのための人材発掘・育成を目的とし、2012年からスタートしました。

論文のテーマは日中の政治、経済、文化など幅広い分野を対象としています。専門性の高い研究論文はもちろん歓迎しますが、それだけに限りません。実践報告や体験談をレポート形式でまとめていただいても構いません。オリジナリティがあり、これからの日中関係について明確なメッセージを持った論文・レポートを期待しています。

応募は「学部生の部」と「大学院生の部」に分かれており、審査によってそれぞれの部から最優秀賞1本、優秀賞若干本を選びます。また応募者多数の場合には、特別賞(若干本)をそれぞれに設けます。最優秀賞には副賞として10万日本円、優秀賞には3万日本円、特別賞には5000日本円(図書券)をそれぞれ贈呈します。また受賞者論文集を日本橋報社から発刊予定です(第8回宮本賞の受賞者論文集=写真参照)。

昨年の第8回宮本賞には、「学部生の部」に54本、「大学院生の部」に33本、合計87本の過去最多の応募がありました。この中から「学部生の部」では最優秀賞1本、優秀賞3本、特別賞4本を選びました。また、「大学院生の部」では、優秀賞3本、特別賞3本を選びました。

このほか、受賞者全員に日中関係学会への入会資格が与えられます(大学院を含め、卒業まで年会費無料)。また、中国国内の各大学から応募し、受賞した方の中から、特に優れた3~4名を東京で開催の受賞者表彰式・若者シンポジウムに招待します(3月後半に開催予定。航空運賃など交通費・宿泊費は学会が負担)。

新型コロナの流行は大学の授業にも様々な影響を与えていると思いますが、むしろ自宅

学習の増えたこの機会を利用して、官本賞への応募にチャレンジされてはいかがでしょうか。皆さん、奮ってご応募ください！

1 募集内容

(1) テーマ：日本と中国ないし東アジアの関係に関わる内容の論文、レポート。政治・外交、経済・経営・産業、文化・教育・社会、環境、メディアなどを対象とします。なお論文の最後の部分で、論文内容がこれからの日中関係にどのような意味を持つか、提言も含めて必ず書き入れてください。

(2) 応募資格：「学部生の部」か「大学院生の部」かのどちらかに応募できます。

学部生の部 = ①大学の学部生②学部を卒業後2年以内で、大学院入学の準備をしている人や企業に勤めている人（研究職ではない）

大学院生の部 = ①大学院の修士課程学生、博士課程学生、聴講生、研究生
②大学院を卒業・修了・満期退学後3年以内で、研究職に就いていない人

<注>学部生の部、大学院生の部ともに、グループによる共同執筆が可能です（第8回では、11のグループの共同執筆論文が応募され、そのうちの4つが受賞しました）。また、中国の大学など、海外からの投稿も大いに歓迎します。もちろん、当学会の非会員の方でも投稿できます。

(3) 執筆言語：日本語で執筆してください。

(4) 字数：以下の字数には図表、脚注、参考文献を含みます。字数制限を厳守してください。上限を大幅に超えた場合には、字数調整をお願いすることがあります。

学部生の部 = 8,000～10,000字

大学院生の部 = 8,000～15,000字

加えて、論文・レポートの要約（約400字）を別に作成

(5) 論文スタイル：論文サンプル(2本)をご覧ください、同様なスタイルでの執筆をお願いします。

(6) 応募方法：

●応募の申請(エントリー)：

応募を希望される方は、以下の項目を全て記載し、応募の申請を2020年9月30日(木)までに行ってください。文末のエントリー用紙をご利用ください。

① 応募資格（「学部生の部」か「大学院生の部」かを明記）②氏名（フリガナ）③大学名・学部名・学年／大学院名・研究科名・学年（卒業・修了の

場合はその年・月も記載してください)

④性別・生年 ⑤指導教員 ⑥宮本賞の募集をどこで知ったか

⑦住所・郵便番号 ⑧電話番号 ⑨メールアドレス

●論文・レポートの提出：

応募者は2020年10月31日(日)までに、論文・レポートを提出してください。期限を過ぎますと応募資格を失いますので、ご注意ください。

なお提出の際に、論文・レポートとは別に、論文・レポートの要約(約400字)を添付してください。

●応募の申請先、論文・レポートの提出先：

<学部生の部> son0630gokuu@ab.auone-net.jp (藤村幸義)

念のため「cc」で以下のアドレスにも送ってください。

takayamayu5@gmail.com (高山勇一)

<大学院生の部> takayamayu5@gmail.com (高山勇一)

念のため「cc」で以下のアドレスにも送ってください。

son0630gokuu@ab.auone-net.jp (藤村幸義)

(7) その他：

①投稿論文は未発表のものに限ります。他に投稿した原稿と同一の場合は不可です。

②受賞者(最優秀賞、優秀賞、特別賞)は、受賞発表後に同一原稿を他に投稿することを一定期間控えるようにしてください。

③受賞論文(最優秀賞、優秀賞、特別賞)は、学会のホームページに、全文あるいは要旨を掲載します。あらかじめご了解ください。

④受賞者の全論文を掲載した「受賞論文集」(最優秀賞、優秀賞、特別賞)を出版いたしますので、あらかじめご了解ください。その場合の論文の著作権は、日中関係学会に属します。

⑤投稿された原稿は返却いたしません。

⑥受賞者の発表はご本人に直接連絡するほか、ホームページ上にも掲載します。

2 表彰および副賞

学部生の部 = 最優秀賞1本(表彰状および副賞10万日本円)、優秀賞若干本(表彰状および副賞3万日本円)を選びます。また応募者多数の場合には、特別賞(表彰状および図書券5000円相当)を設けることがあります。

大学院生の部 = 最優秀賞1本(表彰状および副賞10万日本円)、優秀賞若干本(表彰状および副賞3万日本円)を選びます。また応募者多数の場合には、特別賞(表彰状および図書券5000円相当)を設けることがあります。

3 審査委員メンバー (予定)

審査委員長： 宮本雄二 元駐中国大使、日中関係学会会長

審査委員：

<学部生の部>

大久保勲 福山大学名誉教授、日中関係学会顧問

杉本勝則 元参議院法制局法制主幹、日中関係学会理事、アジア・ユーラシア総合研究所研究員

露口洋介 帝京大学経済学部教授、日本銀行初代北京事務所長、日中関係学会評議員

林千野 双日株式会社海外業務部中国デスクリーダー、日中関係学会副会長

藤村幸義 拓殖大学名誉教授、日中関係学会監事

村山義久 時事総合研究所客員研究員、日中関係学会評議員

<院生の部>

江原規由 国際貿易投資研究所チーフエコノミスト、日中関係学会監事

加藤青延 NHK 解説委員、日中関係学会副会長

国吉澄夫 元東芝中国室長、日中関係学会副会長

高山勇一 元現代文化研究所常務取締役、日中関係学会理事

村上太輝夫 朝日新聞オピニオン編集部解説面編集長、日中関係学会理事

吉田明 前清華大学外国語学部日本語教員、元朝日新聞記者、日中関係学会会員

4 その他

- (1) 受賞者全員に、日中関係学会への入会資格が与えられます。卒業（大学院を含む）まで年会費無料の特典が付きます。受賞の直後に卒業の場合は、社会人になっても一年間だけ年会費無料で入会できます。
- (2) 中国国内の大学から応募し、受賞した方の中から、特に優れた3～4名を東京で開催の受賞者表彰式および「若者シンポジウム」に招待します。国際航空運賃など交通費・東京での宿泊費は、学会が全額負担します。

官本賞については毎年、様々なマスコミで取り上げられております。毎日新聞、中日新聞、NHKラジオ、人民日報、人民中国、チャイナネット、ダイヤモンド・オンラインなどです。詳細は以下のサイトをご覧ください。受賞論文一覧や参加大学一覧なども見ることができます)

<http://www.mmjp.or.jp/nichu-kankei/>

官本賞実行委員会：委員長＝林千野 副委員長＝国吉澄夫、村上太輝夫、川村範行、伊藤正一
委員＝内田葉子、高山勇一、三村守、方淑芬、朱杭珈、江越眞、藤村幸義

<エントリー用紙> 以下の表をコピーしてご使用ください。

①	応募資格（「学部生の部」か「大学院生の部」かを明記）	
②	氏名（フリガナ） 例：李遠声（リエンセイ）	
	大学名・学部名・学年／大学院名・研究科名・学年（卒業・修了の場合はその年月と現在の所所属先を記入） 例：北京第二外国語学院日本語言語研究科博士課程後期 2 年	
④	性別・生年 例：男・1992 年生まれ	
⑤	指導教員 例：李遠声・北京大学教授（指導教員）	
⑥	宮本賞の募集をどこで知ったか 例：学会 HP、指導教員からの推薦など	
⑦	郵便番号・住所	
⑧	電話番号	
⑨	メールアドレス	